

19.かれらは上を飛ぶ鳥に就いて考えないのか。翼を広げ、またそれを畳むではないか。慈悲あまねく御方の外、誰がそれらを支えることができよう。本当にかれは、凡てのことを御存知であられる。

20.慈悲あまねく御方を差し置いてあなたがたを助ける軍勢となり得るものは、誰であるのか。不信者は、妄想しているに過ぎない。

21.かれがもし御恵・を止められると、あなたがたに恵・をなし得るものは誰であるのか。いやかれらは高慢と、(真理からの)回避に固執する。

22.顔を伏せて(只頑なに)歩く者と、正しい道の上を規則正しく歩く者と、どちらがよく導かれるのか。

23.言ってやるがいい。「かれこそはあなたがたを創り、あなたがたのために、聴覚、視覚、感情(知力)を与えられた方である。何とあなたがたの感謝の念の薄いことよ。」

24.言ってやるがいい。「かれこそは、あなたがたを地上に分散し繁栄させられた方であり、あなたがたはかれの御許に集められる。」

25.かれら(不信者)は、「もしあなたがたの言葉が真実なら、この契約は何時(果たされるの)であろうか。」と言う。

26.言ってやるがいい。「本当にそれを知るのは、アッラーだけである。わたしは公明な警告者に過ぎない。」

27.かれらが目の辺にそれを見る時、不信者たちの顔は悲し・に曇る。「これがあなたがたの求めていたもの(約束の成就)である。」と告げられる。

28.言ってやるがいい。「あなたがたは考えないのか、もしアッラーが、わたしやわたしと一緒に者を滅ぼされても、また慈悲を与えられても、凡そ不信者を痛烈な懲罰から救うものは誰であろうか。」

29.言ってやるがいい。「かれは慈悲あまねく御方であられ、わたしたちはかれを信仰し、かれに(全てを)托す。やがてあなたがたは、明らかな過誤の中にいる者が誰であるのかを知らう。」

30.言ってやるがいい。「あなたがたは考えないのか。もし或る朝、あなたがたの水が地下に沈・去ったならば、湧き出る水を、あなたがたに(■?)せるものは、一体誰であるのか。」

SURA 68.筆章 [アル・カラム]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ヌーン。筆に誓けて、また書いたものにおいて誓う。

2.主の恩恵において、あなたは間違いではない。

- 3.いや、本当にあなたには、尽きない報奨があろう。
- 4.本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。
- 5.やがてあなたは見よう、かれらもまた見るであろう。
- 6.あなたがたの誰が間違いであるかを。
- 7.本当にあなたの主は、道から迷い去った者を、最もよく知っておられ、また導かれている者を最もよく知り尽される方である。
- 8.それであなたは（真理を）否認する者に従ってはならない。
- 9.かれらの願いは、あなたが歩・寄ることで、そうなればかれらも妥協したいのである。
- 10.あなたは、卑劣な誓いをたてるどんな者にも屈従してはならない。
- 11.中傷し、悪口を言い歩く者、
- 12.善事を妨げ、掟に背く罪深い者、
- 13.乱暴（残虐）な者、その外素性の卑しい者、
- 14.富と（多くの）子女を持っているために（そうである、これらの者に従ってはならない）。
- 15.かれにわが印が読唱されると、「それは昔の物語です。」と言う。
- 16.やがてわれは、鼻の上に焼印を押すであろう。
- 17.本当にわれは、（果樹）園の持ち主を試・たように、かれらを試・た。かれらが、早朝にそれ（果物）を収穫することを誓った時に、
- 18.（アッラーの御望・ならば）と、条件を付けることをしなかった。
- 19.それでかれらが眠っている間に、あなたの主からの天罰がそれを襲った。
- 20.それで朝には、それは摘・取られたようになった。
- 21.早朝かれらは栗いに叫んだ。
- 22.「もし収穫するのならあなたがたの畑に急ぎましょう。」
- 23.そこでかれらは低声に囁き合って出かけた。
- 24.「今日は一人の貧乏人も、あの（果樹園）に入らせてはなりません。」
- 25.かれらは強く心に決めて、朝早く出て行った。
- 26.だがかれらがそれを見た時、言った。「わたしたちは、道を間違えている。」
- 27.いや、わたしたちは（収穫物を）奪われた。」
- 28.かれらの中、すこし穏やかな一人が言った。「あなたがたはどうして（主を）讃えないのかと、わたしが言ったのに。」

- 29.かれらは、「わたしたちの主を讃える。本当にわたしたちは不義でありました。」と言った。
- 30.そこでかれらは、栗いに責め合い始めた。
- 31.かれらは言った。「ああ悲しい、わたしたちは本当に横柄でした。
- 32.主はこれに代る、更に良い（果樹園）を与えられるかもしれない。本当にわたしたちは、（悔悟して）主に嘆願します。」
- 33.このようなものが、（現世の）懲罰である。だが来世の懲罰は更に大きなものである。もしかれらに分っていたならば。
- 34.本当にアッラーを畏れる者に対しては、主の御許に喜びの樂園があろう。
- 35.われは信心深い者たちを、罪人のように扱うとでもいうのか。
- 36.あなたがたはどうしたのか。あなたがたはどう判断するのか。
- 37.それともあなたがたには、学ぶに足る啓典があるのか。
- 38.あなたがたが選ぶものは、何でもその啓典の中にあるのか。
- 39.それともあなたがたは、審判の日まで有効な誓約をわれと結んだのか。あなたがたが思慮分別することは、確かにあなたがたのものになるのか。
- 40.（ムハンマドよ）かれらに問え。「かれらの誰がそれを保証するのですか。」
- 41.または、かれらは（主に）配するものがあるのか。かれらが正しいのなら、その配するものを連れて来させなさい。
- 42.脛が、現わにされる日（を思いなさい）。かれらはサジダするよう求められる。だがかれらには出来ないであろう。
- 43.かれらは目を伏せ、屈辱を被るであろう。サジダするよう、確かにかれらは呼びかけられていた。その時五体満足なのに（拒否した）。
- 44.そこでこの御言葉（クルアーン）を虚偽であるとする者をわれに任せよ。われはかれらが気付かない方面から、一步一步（墮落に）導き、
- 45.かれらを猶予するであろう。本当にわれの計略は強く確かである。
- 46.それともあなたがたがかれらに報酬を求め、それでかれらは負担を課せられたのか。
- 47.また幽玄界がかれらの手元にあり、それでかれらは（それを）書き下すことが出来るのか。
- 48.だから忍耐して、あなたの主の命令を待て。魚の友のようであってはならない。苦しきの余り（かれが）叫んだ時（のように）。
- 49.主からの恩恵がかれに達しなかったならば、かれは罪を負わされ、不面目に不毛の地に捨てられたであろう。

50.このように主は、かれを選び正義の徒の一人となされた。

51.不信心者は警告を聞く時、その（物凄い）目付きで、あなたを凡んど倒れんばかりにする。かれらは言う。「本当にかれは憑かれた者です。」

52.だが、この（クルアーン）こそは、万有のための訓戒に外ならない。

SURA 69.真実章〔アル・ハーツカ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ヌーン。筆に誓けて、また書いたものにおいて誓う。

2.主の恩恵において、あなたは間違いではない。

3.いや、本当にあなたには、尽きない報奨があろう。

4.本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。

5.やがてあなたは見よう、かれらもまた見るであろう。

6.あなたがたの誰が間違いであるかを。

7.本当にあなたの主は、道から迷い去った者を、最もよく知っておられ、また導かれている者を最もよく知り尽される方である。

8.それであなたは（真理を）否認する者に従ってはならない。

9.かれらの願いは、あなたが歩・寄ることで、そうなればかれらも妥協したいのである。

10.あなたは、卑劣な誓いをたてるどんな者にも屈従してはならない。

11.中傷し、悪口を言い歩く者、

12.善事を妨げ、掟に背く罪深い者、

13.乱暴（残虐）な者、その外素性の卑しい者、

14.富と（多くの）子女を持っているために（そうである、これらの者に従ってはならない）。

15.かれにわが印が誦唱されると、「それは昔の物語です。」と言う。

16.やがてわれは、鼻の上に焼印を押すであろう。

17.本当にわれは、（果樹）園の持ち主を試・たように、かれらを試・た。かれらが、早朝にそれ（果物）を収穫することを誓った時に、

18.（アッラーの御望・ならば）と、条件を付けることをしなかった。

19.それでかれらが眠っている間に、あなたの主からの天罰がそれを襲った。

20.それで朝には、それは摘・取られたようになった。